

歌舞伎座花籠講座 Season6

2026年1月23日[金]

14時30分開始（開場13時30分）

歌舞伎座3階 花籠ホール

〈講師〉 観世流シテ方 味方 玄

能役者が語る

鬼の能

野
守

力動の鬼 ①

NOMORI



使用写真「野守」味方玄：撮影 ウェブ写真工房

主催／一般社団法人伝統文化交流協会
後援／古典の日推進委員会
特別協力／歌舞伎座サービス株式会社
ジャポニスム振興会 株式会社能楽書林

講師

観世流シテ方

味方 玄

力動の鬼 ①

野守

十四世紀から途切れることなく継承され続けている舞台芸術として「ユネスコ無形文化遺産第一号」に指定された能楽（猿楽）は、日本ならではの神仏習合の信仰、もののあわれ、幽玄の美が凝縮された日本文化の根幹ともいえる芸能です。

京都を拠点として活動を広げる能役者・味方玄氏による歌舞伎座花籠講座。今期のテーマは「鬼の能」です。ひとくちに「鬼」といっても、その姿、存在、心根はまことに多彩。世阿弥が「勢形心鬼」と表現した力動風、「形鬼心人」と表した碎動風、それぞれの鬼の正体を、演者ならではの視点から紐解いてまいります。

新シリーズ初回は、「力動の鬼①」と題して『野守』を取り上げます。古歌にも詠まれた奈良・春日野に伝わる「はし鷹の野守の鏡」伝説をベースに世阿弥が描き上げた、春日の地を守る鬼神の神徳、大和の美しい春景色。鬼神が手にする「野守の鏡」に天上界から地獄までを映して見せる壮大なスケール感を、実際の謡や所作などを交えながら存分に語っていただきます。

味方 玄（みかた しずか）観世流能役者

1966年、京都生まれ。能楽師味方健の長男。幼少より父に手ほどきを受け、1986年、故片山幽雪（人間国宝）に内弟子入門。幽雪（九世九郎右衛門）、十世九郎右衛門に師事。1991年、独立。2001年「京都市芸術新人賞」受賞。2002年、KBS京都テレビにて能楽入門番組「能三昧」（全28回）を監修・出演。2003年、新作能「待月（つきまち）」の脚本を手がけ、シテを演じる。2004年「京都府文化賞奨励賞」受賞。2011年、重要無形文化財（総合）認定。2018年、興福寺・中金堂落慶法要にて「菊慈童」奉納。京都・東京における個人主催の会「テアドル・ノウ」を始め、数多くの演能と能楽の普及活動、企画・演出・プロデュースもこなし、国内外を問わず幅広く活動が続ける。著書『能へのいざない』（淡交社刊）。2022年度「第44回観世寿夫記念法政大学能楽賞」、2023年度「第42回京都府文化賞功労賞」受賞。



©Akashi Photos

2026年1月23日(金) 14:00 開始 開場 13:30 / 終了 15:30 頃

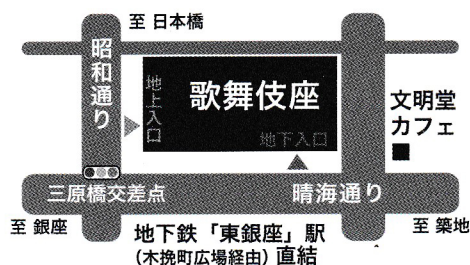
歌舞伎座三階 花籠ホール

参加費：4,000 円 / 青少年 1,000 円（※満 12 才～26 才未満の学生の方 / 学生証提示）

【参加申込み】[Tpac 伝統文化交流協会]

■HP: <https://www.tpac.info/events/detail/id=866&state=off>

◎その他のお問合せは、ホームページまたはメールにてお願いいたします
（お問合せ専用）E-mail: tpacdentobunka@gmail.com



※当日、歌舞伎座正面玄関からの入場はできません

【地下鉄から】

東銀座駅から直結、歌舞伎座B2「木挽町広場」内をセブンイレブンに向かって進み、突きあたり左手奥のエレベーターで3階へ。

【地上から】

昭和通り沿いの、歌舞伎座タワー「昭和通り口」（松石ビルの隣）を入りエレベーターで3階へ。

歌舞伎座花籠講座について

19世紀中頃からヨーロッパで起こった浮世絵などの日本文化ブームは、西洋の文化芸術に多大な影響を与えました。その魅力は物質的なものというより、むしろ精神にありました。日本の伝統芸能のシンボル・歌舞伎座の一角で開校した【歌舞伎座花籠講座】で、日本文化が伝えるその精神に触れてみてください。

古典の日

平成24年9月施行「古典の日に関する法律」により毎年11月1日が「古典の日」と制定され、国民が古典に親しみ心のよりどころになる機運が醸成されることが期待されています。